

## 平成 18 年度事業計画

我国の経済環境は緩やかな回復の兆しを見せているが、多額の助成金を受けている J R A の業績は依然として厳しい状況にある。

このような状況を反映し、J R A からの助成金交付額も毎年減少し、現在はピーク時の 1 / 2 になっていることから、連盟としても自主財源の確保及び費用の削減を進める。

主催・公認競技会制度を一層充実するとともに、審判員等競技役員の技術向上を図り、世界に通じる優秀人馬の養成に努める。

第 15 回アジア競技大会（ドーハ/2006）馬術競技・世界馬術選手権（W E G アーヘン/2006）については最強人馬を派遣できるように支援をする。

長期的な競技力向上として、「一貫指導・競技者育成プログラム」を活用し、次世代の柱となるジュニア層の指導強化を図る。

各県馬連・組成団体との提携業務、公認競技会開催組織委員会との競技会成績集計、会員の各種登録・申請において、より一層 IT 化を促進し、経費を削減しながら敏速に業務を遂行する。ホームページと「馬術情報」との有機的な関連を推進する。

内国産乗用馬生産、調教技術の振興策として、主催競技会において優秀な成績を収めた内国産馬に対する奨励策を行う。

- 1 . 各種馬術競技会の主催及び公認  
全日本障害馬術大会（ジュニア等を含む）、全日本馬場馬術大会（ジュニア等を含む）、全日本総合馬術大会（ジュニア等を含む）、全日本エンデュランス馬術大会、国民体育大会馬術競技を主催する。  
各種競技会の公認を行う。  
国際馬術競技会を開催する。  
必要と認めた国際競技会及び組成団体の競技会等を支援する。
- 2 . 馬術競技に関する各種規則の制定  
我国における馬術競技に関する各種規則の制定及び改廃を行う。  
公認競技会でのカテゴリー・グレード制を充実する。
- 3 . 国際競技会等への参加及び人馬の派遣  
海外合宿訓練等を実施する。  
国際馬術連盟公認の国際講習会・研修会等へ参加する。  
国際競技会等へ選手・役員を派遣し、競技力向上に努めると共に、諸外国との交流・親善を深め、併せて国際馬術界の情報収集を図る。  
第15回アジア競技大会(ドーハ/2006)馬術競技へ選手団の派遣を行う。  
2006年世界馬術選手権大会(WEG)に参加する。
- 4 . 馬術の普及及び向上  
国内外で活動するナショナルチームメンバーに対し、支援を行う。  
海外よりコーチを招聘し騎乗・調教技術の向上を図る。  
国際馬術連盟公認の国際講習会を開催し、国際競技役員を養成する。  
国内で開催する国際競技会に招聘する国際審判員等との交流により技術の向上を図る。  
組成団体の加盟団体が所有する馬匹に対し飼育助成を行うと共に、都道府県馬術連盟及び組成団体の事務費の助成を行う。  
ホームページ等によりさまざまな情報を展開し、馬術普及啓蒙活動を行う。  
ポニーの活用・新種目の振興により乗馬人口の増大を図る。  
馬事関連団体との連携を図りながら、健全な馬術の普及に努める。
- 5 . 競技馬及び選手の登録  
当連盟の主催・公認する競技会及び国際競技会に参加する人馬の登録業務を行う。
- 6 . 各種資格の認定  
審判・コースデザイナー等競技役員の講習会を実施し、新規資格者の認定を行う。  
(財)日本体育協会公認スポーツ指導者養成制度に則り公認馬術コーチ

を養成する。

準コーチの検定講習会を行う。

騎乗者資格認定を行う。

7 . 馬術に関する事項の調査研究及び指導奨励

国際馬術連盟及びアジア馬術連盟の活動に積極的に人材派遣を図り、その活動に協力すると同時に国際舞台での発言力、影響力の強化を図る。

「一貫指導・競技者育成プログラム」を実行するための環境を整える。

馬術に関するメディカルドクターを組織化し、選手に対しスポーツ医科学の面から見た強化を図る。

8 . 優秀な競技馬の増加

内国産馬の振興を図る。

内国産馬振興のための奨励策として優秀乗馬奨励金の付与を行う。

内国産乗用馬生産団体と連絡を密にし、必要な助言を行う。

9 . 機関紙の刊行、頒布及び広報活動

馬術情報の刊行及びホームページの充実を図る。

マスメディアに対し情報を積極的に提供する。

10 . IT化の推進

IT化の充実を図る。

主催・公認競技成績のデータベースを充実させると共に、ホームページを通じて公開する。

11 . 表彰制度の実施

功労人馬の表彰を行う。

当該年度の内外競技会において、優秀な成績を収めた人馬の表彰を行う。